

新潟県

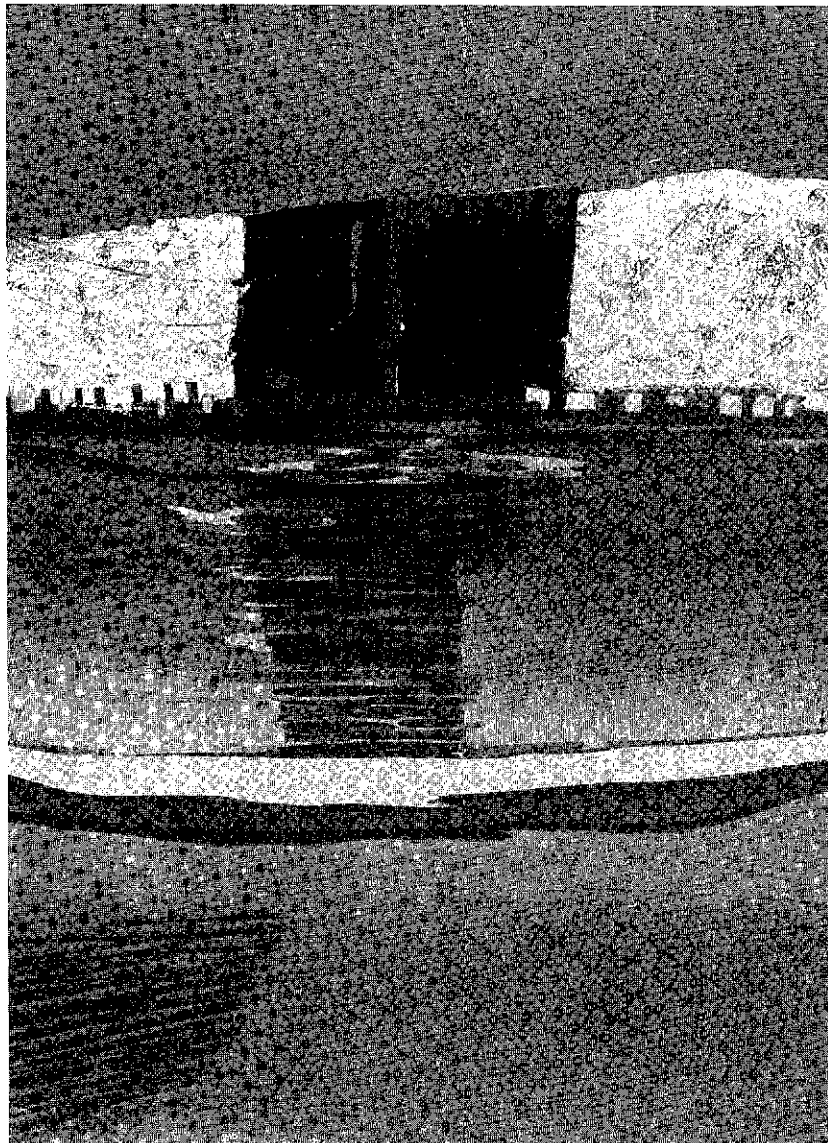
平成2年

公民館月報

7月
第449号

公民館事業入門(4)

——管理・事務部門の問題点——



高橋 信一 みなも
「白い道」(水面)
61.6cm×44.0cm
紙本額装
新潟県美術博物館所蔵

高橋信一(1917~1986)は
両津市出身。佐渡版画村運動
の指導者として知られ、また
新潟県の木版画普及に最も影
響を与えた人である。

『白い道』シリーズは作者
のライフワークとして、仏典
の「二河白道」(にがひやく
どう)に題材を得たもの。従
来の木版画に「裏摺り」の技
法を用いて独特の効果を出し
ている。

第 1 回 編 集 委 員 会 開 催

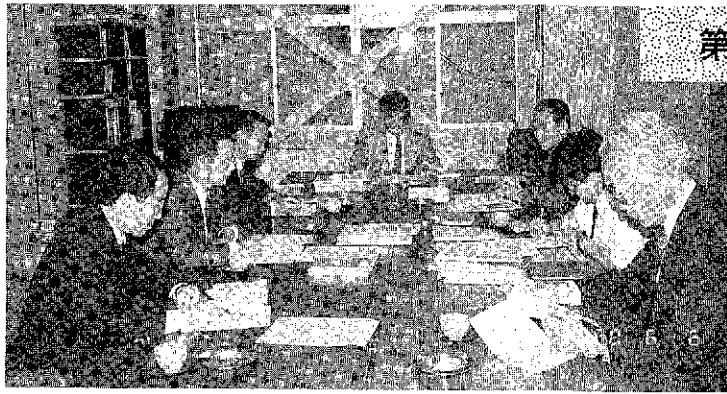
新委員による初会合

「月報」の取材に協力

記念誌の編集にも取り組む

去る六月六日(水)新潟市中央公民館を会場に、本年度第一回編集委員会が開催された。

今年度は、編集委員の改選の年であることから、新たに委嘱された委員(うち二名は留任)八名により、「公民館月報」「40周年記念誌」の編集について、初会合ながら建設的な意見が活発に開陳された。



編集委員

山川 剛(上越公連)

上越市立公民館係長

柳沢 薫(中越公連)

小出町公民館長

久保田千昭(中越公連)

小千谷市公民館

社会教育主事

小川 昇(下越公連)

新潟東地区公民館

社会教育主事

斉藤 幸雄(下越公連)

加治川村公民館

笠原 勝治(記念誌)

新潟市石山公民館長

高野 昭彦(記念誌)

新潟市中央公民館嘱託

関 吉彦

新潟県教育庁

社会教育課副参事

この日出席の委員は六名(二名欠席)。初会合ながら積極的な意見が飛び交い、予定時間を、時間ほど延長するという充実した編集委員会であった。

主な協議内容は次のとおり。

一、「公民館月報」の編集

1、重点目標は、独自性(特色ある活動)を発揮している公民館活動事例の紹介ならびに、これに関する情報の提供に努める。

このため、上・中・下越地区公連選出の委員は、各地区の取材協力員としての性格を持ち、今後の取材活動に協力することとなった。各公民館では、その点を了解して対応してほしいところである。

2、表紙絵は、これまで県美術館博物館の協力により、郷土作家・作品シリーズを実施しているところであるが、三年を経過することもあって、新趣向によることが話し合われた。それによると、各市町村の風物を紹介する写真シリーズにしたい意向である。目下詳細を検討中では

あるが、具体化のあかつきには、各公民館の協力を求めることになるであろう。

二、記念誌の編集について

昨年の評議員会で決定をみている、当県公連四十周年記念誌の編集がいよいよ開始される。具体的な内容、ページ建て等

研修専門委員会開催

特色ある研修内容を工夫

六月五日(火)新潟市中央公民館を会場に、今年度第一回研修専門委員会が開催された。

公民館職員の資質向上のため、どのような研修が効果的であるかを検討したものであるが、またまた特色ある方法を工夫し、従来の内容をより一層充実したものにできると委員一同胸を張っていた。

研修専門委員会には、昨年度の関吉彦(県社教課副参事)・徳間助夫(元柏崎市中央公民館事務長)・田村達夫(元十日町市公民館長)の三氏の他に新たに桑原昭三氏(前十日町小学校長)を加えた四氏が、直接指導に当たることになっている。

研修の主な要項は次のとおりである。

一、受講対象は広く公民館職員を対象とし、経験年数の長短にはこだわらない研修とする。

は、第二回編集委員会で決定し、本格的に始動することになるが、各市町村の公民館の現状を紹介する欄が用意されるので、これまた、各公民館の協力による部分が出てくる。その節は積極的な協力をお願いしたいとしている。



二、内容―職員が主催事業に取り組む場合のあり方、留意点等、実際に即した対応の仕方について、ベテラン職員の事例に学ぶ。全体会で事例発表を聞き、その後分科会で、部門別にドリルをする。

三、特別講義を聴講する。
なお日程細部は八面の開催要項による。

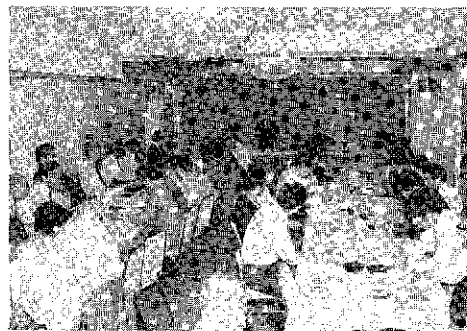
全公連総会終る 石井副会長勇退

去る六月九日(土)、社団法人
全国公民館連合会総会(会場)
が開催された。

定例の案件の他に新規事業と
して「全国公民館名鑑」が作成
されることになった。この名鑑
は五年毎に刊行されてきている
ものではあるが、今年度は吉里
会長のきも入りで、従来の名鑑
に一と味加えた名鑑になる予定

である。当県内市町村公民館に
ついても名鑑登載のための原稿
執筆の依頼がなされることとな
る。その節はご協力を願いたい。
なお、この総会において、長
年学識経験理事・副会長として
つくしてこられた石井耕一氏
(元本会会長)が高齢のため勇
退された衷心からその労を慰め
たい。

退された衷心からその労を慰め
たい。



辛 口

夜もかな
り更けよう
として
のに、公民
館年間利用
計画書を
企画委員の
人たちが必
死に作り上げようとして
いる。午後七時より
始め、まず企画委員の
構成員でもある五つの
部会の代表者より報告
がある。それに対する

の代表者、地区生涯学
習推進委員、行政側の
生涯学習担当官、それ
に事務局としての公民
館職員、以上の人たち
で企画委員は構成され
ている。

地域の独自性を守り延ば
すことを目的とする。
・情報部会(注2) 地
域を脱却し普遍性を
取り入れることを目的
とする。

えているのは、企画力
が、その公民館の魅力
を決定するものにする
ということを十分認識
しているからなのだ。
五つの部会の代表者の
他に、地区の各年代層

私の考える数年後の公民館

村尾 建 治

各委員がこんな燃

公民館の運営は全て
企画委員に任せられて

・行政部会(注3) 公
民館の行政的役割と行
政として応援できるこ
とを明確にする。

・専門部会(注4) 社
会が必要とされている
様々な資格を調べ、
取得までの学習プログ
ラムを検討する。
(県小中学校
PTA連合会々員)

素朴な人情を大切に 本保 敦子

昭和四十年代後半から五十年
代にかけての離島ブームで、粟
島は一躍脚光を浴びた。その後
民宿が増え、船の高速化により
観光客が増えていく中で、生活
環境施設の整備が進められ、道
路の拡幅や観光施設の建設
等開発がめざましい。

観光で来られるお客様に
よく聞かれることがある。
「粟島って見るところがあ
るんですか?」と。そんな
ときにはこう答えていま
す。「いいえ、粟島は特別ご
覧いただくとところはござい
ません。ただ、島の人たち
のあたたかい人情にふれ、
おいしいお魚を食べていた

ただけです。何も無いところ
が粟島の良さでもあるんです」
と。

四季折々の自然の美しさにふ
れ、どこまでも透きとおる海を
ながめて、のんびりと過ごす粟
島の旅。いろいろな雑念を
とり払い、疲れを癒してく
れる、そんなところではな
いだらうか。思いっきりリ
フレッシュしてくれるに違
いない。

公民館歳時記 (4)

しかし、どんなに観光地
化しても失ってはならない
ものがある、それは、「まご
ころ」である。便利な世の
中になるに従って、物事を
機械的、事務的に処理して
しまいがちであるが、この
粟島は素朴な人情が売りも
のであるから、それを大事
にして自然を保護しながら、お
客様から二度と来たくないと言
われないような島にすること
が、公民館の重要な学習活動の
要素と考え、観光の島としての
名に恥じないよう一層努力をし
ていきたい。

(岩船郡粟島浦村公民館
社会教育主事)



アップ
イベント
のスイ
キ出で
開職員
島職員
1~3日
1~団体
5月場
に役当

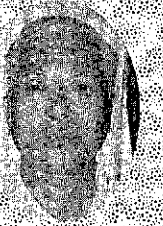


門 (4)

問題点

田村 達夫

11月14・15日にお
担当助言者が問題



田村達夫氏

(編集子)

公民館の職員の多くは、管理運営に関する部門は館長の専門分野と考えがちのようである。そこで、「管理・事務部会」を設け、広く県下の公民館の実態を資料にしなが、基本的な問題や今日的な問題を検討する部会にした。

ここに紹介する部会研修の内容は、助言の任に当たった田村達夫氏から、参加者の持つ問題を集約し、又、それ以外の今日の課題についても、今後の方向を指摘してもらったものである。さらには、氏の公民館の活性化に関する問題の解決の方向をも指摘してもらった。

初部会

県公連主催の職員研修に、管理・事務部会が設けられたのは今回が初めてである。

三市二町の公民館職員、専任二兼任三、計五人が参加した。

関心事は、「予算、勤務形態」、「土曜閉庁に関連する公民館職員の勤務体制」、「管理、予算面に強くになりたい」、「市独自の職員研修のもちかた、社会教育課との事業分担のあり方」、公民館職員の勤務形態及びそれに伴う予算措置、施設提供のありかたであった。

勤務の実情

部会における話題の中心は、「生涯学習」と「週休二日制」という時代の流れの中における公民館職員の勤務上の諸問題であった。

まず、各人が勤務する公民館の施設と職員の勤務の実情を報告しあった。その中からいくつかの内容を紹介しよう。

○各公民館が土曜・日曜ともに閉館している。夜間利用も可能で、十時閉館が三館、九時半が一館である。

○夜間と土曜・日曜の管理員、警備関係、清掃部門、暖冷房・電気系統の保守点検等の面で、施設の管理・運営業務の民間委託がおこなわれている。

この点について、単に人件費

の縮減、安上がりのためといった、経済優先の民間委託に対しては「歯止め」を講じる必要がある。

○職員の間外勤務について、いまだに、他職場なみの超過勤務手当の支給でなくて、月九時間の手算割り当てをしているといった市があった。

Y町では、公民館職員に月三千円の特殊勤務手当を支給している。特筆すべきことである。職員の絶対数不足によるオーパーワークは、各公民館に共通する最大の課題といえよう。

週休二日制問題

近々、全市町村で実施されるであろう役所の隔週土曜閉庁は、完全週休二日制への移行措置である。

土曜閉庁・週休二制に対する公民館の対処のしかた、特に職員体制・勤務のありかたを、どのように改善するか、これは関係者にとって緊要の課題である。(参考1)

職員の増員によって解決をはかることが本筋であるが、至難の業である。住民感情を背景に、「職員を増やさないと経費をかせない」「サービスを低下させない」

〈参考1〉十日町市の土曜閉庁

(平成2年7月～)

第2・第4土曜日に業務を休むところ	今までどおり業務を行うところ
◆市役所本庁	◆福祉関係 保育所、身体障害者福祉センター、老人福祉センター羽根川荘、老人憩いの家四ツ宮荘
◆下桑、吉田、水沢の各出張所(ただし公民館業務は今までどおり)	◆教育関係 小・中学校、視覚聴覚ライズブリー、理科センター、公民館、市民会館、博物館、市史編さん室
◆水道局(浄配水場を除く)	◆体育関係 体育課(総合体育施設)など各種体育施設
◆下水処理センター	◆生活関係 衛生施設組合(ごみ処理尿の収集・火葬場)、浄配水場
◆学校給食共同調理場	◆消防関係 消防本部、消防署
◆青少年ホーム、少年育成センター	
※出生届、婚姻届、死亡届、大葬許可証の受付は、日曜日と同様に市役所地下1階の当直室で行います。	

い」の「三ない」が重くのしかかってくるのが現実である。無理難題というものだ。「公民館の性格・機能、地域における役割」と「職員の福利・厚生、余暇活動、私生活への配慮」の両面から接近した解決策でなければならぬ。

そのためには、公民館事業の見直しと、施設(対物)管理、事務処理の見直しをしなければならぬ。

併せて、利用者の実態と動向について考察する必要がある。また、他市町村における公民館職員の勤務実態も参考になるだろう。さらに、同一市町村内の教育・文化・体育関係、福祉関係、生活・衛生関係、防災関係の職員との関連性も無視できない。

このような項目を検討した上で、「公民館の閉館日・休館日と職員の休日との関係」、「開館時間と職員の勤務時間との関係」をどう改善するかということになる。職員の過度の負担と犠牲を強いてはいけない。その際に、職員の処遇身分、給与、研修の問題と、公民館協力者(ボランティア)の組織化の問題にも着目すべきである。

土曜閉庁・週休二制に対処する公民館の諸問題について、職員間でとことんまで話し合っ

〈参考2〉県内20市の土曜開庁状況 (平成2・3・1現在)

実施年月	市名
元年8月	上越、新発田
2年9月	村上
2年1月	新潟、長岡、柏崎、五泉
2年4月	新津、小千谷、白根、豊栄
2年6月	三条、加茂、糸魚川
2年7月	十日町、新井
2年9月	燕
末定	見附、栃尾、両津

公民館事業入

管理・事務部門の

執筆担当者 元十日町市公民館長

本会主催の公民館職員研修(平成元年ける部会演習で討議された内容をもとに解決の方向を示唆したものである。

た上で、職員集団としての意志表示があつて然るべきである。

「週休二日制社会の公民館のあり方」は、公民館運営に関する重要事項である。館長は運営審議会に諮問したのであるか。

また、運営審議会は諮問の有無にかかわらず、積極的に「調査審議」しているであろうか。

利用者(住民)の理解と支持を得なければならぬ。

実態に即した具体的改善策を当局に働きかけ、その実現によって、公民館活動一歩前進の橋頭堡を築いてもらいたい。

エトセトラ

○運営審議会

公民館の運営に住民の意見・意志を反映させるために、公民館運営審議会は社会教育法で設置が義務づけられている。

近年、運営審議会の形骸化がうんぬんされているが、法律の「館長の諮問に応じ」の文言にこだわり、役割を限定的に狭くとらえる消極論がある。由々しい問題である。公民館側で、運営をお荷物扱いにしている向きはないであろうか。

職員の中から、「どうも運営は難しい」「関係ないもんね」とか「運営は本当に必要なんだろうか」等の声がちらほら聞こえてくるが、再考を促したい。



○県公民館白書

当職員研修の部会で必要のために、県下の公民館の実状、特に施設と職員の実態が分かる資料を探したが、県教委刊行の「社会教育の現状」しか見当たらなかった。これは、毎年、社会教育概観と公民館概観の調査資料によりまとめられたものである。当日、平成元年度版を入手できなかったため、結局独自に調べた部会参加の勤務館の実態を唯一資料として話し合いをした。

県下の公民館の実態を調査して、各公民館の運営に役立つ資料として「新潟県公民館白書」をつくってもらいたいものである。県公連の会則にうたっている「各市町村の公民館の連絡提

携と公民館活動の振興発展」をはかるための事業として、時宜にかない、ひ益するところ大であると思う。

○公民館主事会

公民館活動をますます充実させるために、公民館主事研修の機会の拡充が望まれる。公民館の担い手、主事たちの全体的交流と共励の場として、かつてあった、新潟県公民館主事会を復活できないものであろうか。有志の発起を熱望してやまない。

相互の意志の疎通が図られ、

公民館が抱えている諸問題と取り組む全体的態勢ができること

である。そうすることで、きつと市町村の公民館と職員にとつて、県公連の存在が「われらの

県公連」として、一層身近なものに変わってくるだろう。大きな波及効果が期待される。

○職員研修

N市では、「市民の生涯学習を推進するために、公民館の果たす役割を考えよう」というテーマで公民館職員研修会を実施している。なかなか市町村では単独の職員研修が持ちにくいらしい。

県教委とか県公連主催とは違って、市町村では、日常的、実務的、実践的な内容の研修を考えてみてはどうだろうか。例

えば、公民館職員としてぜひ身につけたい方法・技術の習得、事業の共同企画実施とか、事例研究をするとかを。個人研修のための資料(単行本・雑誌等)も充実してほしい。仕事の上で、今困っていることが出発点ではないだろうか。また、近隣市町村の職員と自主研修グループをつくることも勧めたいことの一つである。

研修には助言者がほしい。気軽に利用できる助言者団の編成を、県公連あたりで考えてよいことかもしれない。

○事務

事業はすべて、事務(庶務・会計)の裏付けがなければ進めていくことができない。また、事務を全うするためには、事業についての理解がなければならぬ。すなわち、事業と事務が協力連携してこそ、公民館の力量が存分に発揮されるわけである。職場における分担を決める際にこの点を配慮する必要がある。

「公民館の予算は、公民館活動の計数化された活動の記録である」といわれている。参加者のひとり叙述懐いて「公民館職員も財政に強くならなくては……」と。

横越村の地域公民館

ナウーイ公民館で地域の活性化

はじめに

横越村は新潟市に隣接する、面積二四平方料、人口九千六百人とコンパクトにまとまった村である。かつては、大都市近郊農村の特色を持っていたが、今や新潟市のベッドタウンとなりつつある村である。

この村の公民館の特色は、九つの「地域公民館」が、地域の

地域公民館の設置状況 (金額単位：千円)

地域公民館名	自治会数	人口	世帯数	予算額	地域負担	村助成	施設規模
横越上社会教育振興会	1	818	179	646	150	230	125㎡
横越新田公民館	1	1,469	356	358	20	290	291㎡
横越下公民館	1	743	173	366	132	230	83㎡
川根谷大地域公民館	1	1,122	282	1,148	100	260	88㎡
沢島公民館	※4	1,501	330	354	0	320	*1,497㎡
木津公民館	※3	1,111	240	885	60	290	300㎡
二本木公民館	※3	1,459	420	750	130	320	250㎡
小杉公民館	※3	985	202	544	120	260	*622㎡
藤駒公民館	☆2	391	81	476	100	200	127㎡

※印は大字自治会設置。☆印は大字自治会の共同設置。*印は公共施設を利用

活性の拠点となっていることである。

生涯学習への移行、ふるさと創生の推進、コミュニティづくりが求められている中で、その活動が目まぐるしく行われている。

浸透しつつある地域公民館

地域公民館は、古くから県内各地に多く存在している自治公民館とか部落公民館と同じもので、地域と住民が直接的な係わりを持ち、より良い地域、より良い人間関係、より良い生活を営むために、実践活動をするみんなの広場と言える。

別表の通り、大字自治会の設置が四館、単一自治会の設置が四館、複数の大字自治会で共同設置が一館ある。

地域公民館の活動費は、自治会からの線出金と村から一館当たり年二〇万円から三二万円の助成がなされている。設置されてから間もないが、地域に根ざした活動、全住民的な活動が展開され、その存在が住民に浸透しつつある。

住民に目を向けた活動

公立公民館のカルチャーセンター化、学校化は、「住民」を見失い、「生活を見落として」と言われている。確かに私たちは、学級講座が中心で、「個人」に目を向け、地域課題や生活課題を解決する活動が少なく、あまり「住民」の方を向いていないようである。

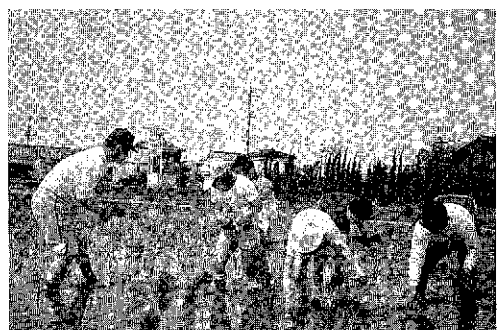
この点、地域公民館は、住民に目を向け、生活に相対して活動している。

あいさつ運動、花いっぱい運動、クリーン作戦、交通安全運動、コミュニティづくり、郷土芸能の伝承、伝統行事・祭礼行事の開催など、地域課題に対しても積極的に取り組んでいる。

独自の活動

また、従来の概念にとらわれない独自の、ユニークな活動も多い。

例えば、収益事業で活動費を捻出し、中央著名講師の文化講演会の開催。毎月十五日を「敬老の集い日」と定め、高齢者と



のふれあい事業。子どもや転居者を対象に、田植え・稲刈り体験事業。緑のオーナー制を設けて、公園緑地の推進をしているところもある。

ふるさと創生にも取り組む

平成二年度には、ふるさと創生一億円事業の一つとして「地域公民館振興事業」が組み入れられた。二千万円(一館当たり一五〇万円、二七〇万円)が交付され、地域おこしも並行して進められている。現在、各地域公民館でその使い道について盛んに論議されている。

お神輿、山車、太鼓、浴衣、ハッピーを揃え、地区のお祭りを盛り上げたい。地域公民館の整備資金に活用したい。ふるさと

関連事業を導入して、集落道に並木整備、堤防敷を遊歩道にしたいという壮大な計画を考えているところもある。

求められる中央公民館の機能充実と指導性

しかし、地域公民館は、スタートしたばかりで、問題や課題も多い。地域住民の知恵とパワーで、これらを解決するよう期待している。

①地域公民館は、集落施設のところと、公共施設を利用してるところがある。施設の平準化を図るために、集落施設の整備に高額の助成制度が必要。

②活動が活発なところは、指導者に恵まれている。また、館長になり手がなく苦慮しているところもある。部制の充実、役割分担の充実が必要。

③行事中心のところもある。地域課題解決の学習や事業、地域ビジョンを構想する地域活動が必要。

④中央公民館のあり方に、問題・課題がクローズアップされた。地域公民館に対する情報の提供、教材教具の貸出、講師・指導者の紹介、リーダー育成、事業運営の助言など、中央公民館が学習センター、情報センタースタートとなり得る機能と条件整備が必要である。

(横越村公民館長 泉沢五一記)

サークル交流

いっしょに歌いませんか コーラス「雪」

昭和六十一年秋、公民館の婦人学級「さわやかさんコーラス」から誕生。以来練習は公民館で月三回。昨年七月の県公民館大会では、ささやかな声のプレゼントをしていただいた。

会員数52、「そんなに多勢：いわね。」とوراやましがられるが力も度胸もイマイチ。二十代から七十代までの山広い年齢層がつくってくれる。人の和が唯一の自慢だという。

広川正二先生独自の発声法で



トシに関係なく透き通るような声を日あてにがんばっている。練習はキツイけれど今まで出なかった音がヒョイと出た時の喜びは格別。人間いくつになっても「達成体験」は貴重です。

公民館との関わりで一番嬉しいのは新しい友達を紹介してもらえること。ややもするとマンネリになりがちな人間関係が、いつも風通しよく保てるからだという。佐藤路子会長は、これからは、ボランティアにも目を向けたいと話している。

(長岡市中央公民館 社会教育指導員 源川久恵 記)

二度とない青春を仲間とグループ「青春ひろば」

私たちは、新発田市公民館を拠点にして、いろいろな職種の青年が集い、仲間づくり、地域づくりを進めています。

11年前に活動が始まり、現在会員42名(男27女15)、年間10回位学習、ボランティア、レクリエーション活動(湯の平温泉の露天風呂待湯、老人ホーム訪問、料理教室、サイクリング、スキーetc)を行っています。そのほか、毎年秋に青春広場

五十野公園のあやめ園は駐車場から四百米の距離。お年寄りや足の不自由な人のために、毎年若者がボランティアで管を替って送迎し、喜ばれている。



ボランティア「あやめ」園

という名前で一大イベントを開催していますが、三年前に実施した「風雲たけし城」ならぬ「風雲しばた城」は、いちばん「ヤッター」と感激したものです。

その企画と準備で、毎日夜遅くまで会議や作業をやり、そして、イベントが無事終了した時には、本当に何とも言えない満足感をあじわいます。

これからも、現代青年の心の乾きに水を与えていけたらなあと思います。

現在、新会員募集中です。

(高川光徳 記)

板倉町公民館主事

宮下 明氏(23歳)

今春国士館大学を卒業し、板倉町教育委員会に採用となった新鋭の宮下明君を紹介します。

公民館主事としては、わずかに二ヶ月程のニューフェイスであります。公民館といえは、まさに生涯学習の場、カリキュラムのない学習活動が各種展開されている。それに、どのように



対応して行くか、今後の彼の熱意と努力、そしてニュー

メニューが住民の学習意欲を醸成してくれることか、期待をされているところです。毎日元気に「おはようございます」にはじまり「おつかれさまでした」まで、学級に講座にスポーツにと若さを躍動させている彼「どうだ?」いや「まださっぱりですわ」でも公民館の仕事っていいなあ、住民と共に考え、語り合いながらの仕事ですから、忙しい中にも、よろこびがいっぱいある公民館活動。やる気バンの彼、よろしくお願いします。(板倉町公民館主事 富田綾子 記)

素顔拝見

入広瀬村公民館主事

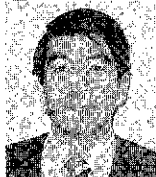
浅井 健五氏(39歳)

「素顔拝見」欄は楽しみである。各市町村の担当者が日々エネルギッシュにご活躍されている「素顔」がよくわかります。

豊かな人間性を発揮してこそ、魅力ある事業が実践できるものと思えます。当公民館主事は、昭和四九年以来、企画(五年)、教委(三年)、企画(三年)、福祉(三年半)、そして再び教委へきて一年半という経歴である。

小規模自治体の職員は、何でも「屋」に徹しないと、住民サービスの向上に寄与できない。公営

結婚式の実施、成人式、敬老会、体育祭、館報の発行



等々、その守備範囲は他町村と比べても大変なものである。担当者の協調性、積極性を更に期待したい。趣味は、登山、アマチュア無線、各スポーツへの参加と決して少なくない。ただ「時間がない」と聞く。終わりに、この素顔拝見に登場された過多数の「川会い」を事務局にて設営できないものか……と。(入広瀬村公民館長 樵沢悌一 記)

研修日程

10月2日 火	10:30	10:50	11:00	12:00	13:00	14:00	17:00	18:00	21:00
	受付	開会式 オープニング 式	休 息	事例提供 ①・② (全体会)	食 卓 ③・④ (全体会)	部会討議 4部会	夕 食	情報 交換	

10月3日 水	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:00	14:50	15:00
	部会討議	まよめ 移動	特別講義 <先進地の公民館に学ぶ>	昼 食	部会報告	指 導	研修の まよめ	閉 幕 式

公民館の実践事例に学び、公民館職員の役割を具体的に体得することを狙ったユニークな研修であり、多数の受講を期待している。

期日 平成2年10月2日～3日
会場 新潟市中央公民館
対象 公民館職員(社教課職員)



県公連主催「職員研修」 「実践事例に学ぶ」職員の役割

10月2日～3日 新潟市中央公民館で

当県公民館連合会で、例年実施している「公民館職員研修」の実施要項が作成され、市町村の関係者に配布された。研修内容は、優れた事業実績を持つ公民館の職員に学ぶ、公民館職員の役割を具体的に体得することを狙ったユニークな研修であり、多数の受講を期待している。

でも公民館の仕事に従事しているものは可) 参加・申込 参加費七千五百円(当日納入、全員宿泊を原則) 8月20日までに県公連へ申し込む。

研修内容 公民館の今日的状況に即し、その事業推進に当たり、公民館職員の果たす役割について、実践事例に学ぶ。

- ① 学級・講座(高齢者教育)
- ② (婦人教育)
- ③ (両親教育)
- ④ 地域づくりと公民館

特別講義 水谷正氏(長野県中野市中央公民館長)

中越地区公民館研究大会

7月30日見附市中央公民館で

中越地区公連では、来る七月三十日に見附市中央公民館で公民館研究大会を開催する。

主題は「生涯学習社会、公民館の可能性と限界」におき、午前は分科会(三部会)、午後は「いま、公民館を……」をテーマにした「対談」が予定されている。

この大会要項の「趣旨」が、極めて今日的な問題を提起しているので紹介する。

「生涯学習」が喧伝され、わたしたち公民館関係者にとつては、「生涯学習」は公民館再生の問題に直面する現在の公民館

公民館はその創成の頃から人間の生涯における課題をとらえ、あるいはまた社会的広がりをも視野に入れ活動してきましたが、以前にも増して錯綜する問題に直面する現在の公民館

草創期の公民館の発展に努力された佐野良吉氏が、十日町地方の歴史をわかりやすく書いた『妻有郷の歴史散歩』を出版された。氏は、すでに「随想妻有郷」を出版されており、本書はその姉妹篇として、その後の踏査と研究と思索の成果をまとめたものである。

内容は、歴史点描・きもの十日町・NHKラジオ「朝の随想」よりの三部で構成され

発行、B6判、290頁、定価一、八〇〇円、最寄りの書店で求められた

平成2年5月31日発行、B6判、290頁、定価一、八〇〇円、最寄りの書店で求められた

に、果たして生涯学習社会のひのき舞台は見えてくるのでしょうか。

こうした過渡期にあつて、本大会は戦後40有余年の公民館の活動の蓄積から、生涯学習社会へ引き継ぎ発展させてゆくものを確かなものとするためにも、その成果とともに限界をも厳しく問い直そうとするものです。

あとがき

◆最近、各地の公民館の研修会で「生涯学習」に関する内容が多く取り上げられているようです。ややもすると「生涯学習」という言葉だけが一人歩きするようになるのは要警戒。

◆公民館は、地域に根ざした活動こそ、しんげんに迫り求める必要があると思えます。

夏バテの時期、がんばりましょう。(上村記)

推 薦 図 書



妻有郷の歴史散歩

佐野良吉 著
国書刊行会発行

草創期の公民館の発展に努力された佐野良吉氏が、十日町地方の歴史をわかりやすく書いた『妻有郷の歴史散歩』を出版された。氏は、すでに「随想妻有郷」を出版されており、本書はその姉妹篇として、その後の踏査と研究と思索の成果をまとめたものである。

内容は、歴史点描・きもの十日町・NHKラジオ「朝の随想」よりの三部で構成され

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 拾二郎
【定価1部120円 年共1,440円】